



「未来志向」「ONE TEAM」で、JR産業に「安心」を取り戻そう！

2022年 3月 4日

日本鉄道労働組合連合会

グループ労組が一斉に要求書を提出

2月10日に開催した「JRグループ労組連絡会2022春闘総決起集会」で意思統一した闘争方針に基づき、要求書の一斉提出日に指定した2月28日、多くのグループ労組が会社に要求書を提出した。

足元では、ホテル・飲食・物販・バス等の事業を営む会社では、コロナ禍に起因する業績の悪化を受け、未だに一時帰休や在籍出向が実施されるなど危機的状況が続いている。また、JR各社からの委託料や工事受注料が主な収益となっている会社においても、JR各社のコスト削減に伴い、先行きは不透明と言わざるを得ない。しかし、そのような環境下であっても、各グループ労組は闘争方針に基づき、雇用と生活の維持を第一義とし、賃金・労働条件を「働きの価値に見合った水準」へと引き上げ、人材流出に歯止めをかけるべく、ベースアップ1,000円をはじめとした要求を堂々と申し入れた。今後、労使協議が本格化していく。

JR連合は、グループ労組の労使協議を支えるべく、雇用調整助成金の特例措置の延長をはじめ、安心して移動や観光ができる環境づくりや人流の活性化、ポストコロナにおける需要回復・拡大に向けた政策誘導に、連合や交運労協をはじめ、国会議員懇談会や21世紀の鉄道を考える議員フォーラム所属の国会議員とも連携し、取り組みを強化していく。そして、エリア連合との連携を密にし、加盟98単組が「未来志向」「ONE TEAM」で今次闘争に臨むこととする。

JR九州労組がJR九州高速船(株)に要求書を提出

JR九州労組は2月28日、JR九州高速船(株)に「2022年度新賃金等の要求」を提出した。未だ日韓航路の運航再開の見通しが立たない危機的状況の中、組合員は一時帰休の実施に理解を示し、会社施策へも積極的に協力してきた。一方、「QUEEN BEETLE」は、3月に船籍をパナマから日本へ変更し、国内港を結んだ運航が今後可能となる。すでに、4月には博多～門司港間の新規航路が開設されることが公表されている。

JR九州労組は、厳しい経営状況に理解を示しつつも、組合員の労苦に報い、賃金・労働条件を「働きの価値に見合った水準」へ引き上げるため、ベースアップ1,000円をはじめとした要求を申し入れた。要求実現に向け、今後交渉を強化していくこととしている。

エリア連合は、グループ労組の要求書の提出状況を確認し、JR連合へ報告を